査ヲ受ケシメル。同時ニ口腔衛生ヲ充分ニ守ラシメル。第一ハ洗口デアル、之ハ食後、外出ヨリ歸宅後必ず行ハシメル。用フルモノハ「ローション」、「オドール」又ハ之ニ類スルモノナラバヨイ。次ニハ正シキ齒牙清掃法ヲ朝晩行ハシメル、ゴツトリープハ清潔ナル口腔ニハ炎症性齒槽膿漏ハ決シテ起ラナイト云ツタガ名言デアル。之ト同時ニ齒牙ノ清掃後ハ必ず指頭ヲ以テ齒齦ヲマツサージセシメル。之等ノ操作ハ個々ニ大シタ効果ノナイヤウニ思ハレルモノデアルガ、患者ヲシテ常ニ口腔ニ注意ヲ向ケシメルト云フ點デ甚ダ効果ガアルノデアル。

(本篇ハ昭和七年十月二日、九州齒科學會第一回總會ニ於ケル檜垣教授ノ御講演ノ大要ナリ。)

顎及ビ顎周急性化膿性炎ノ原因の考察

九州帝國大學醫學部齒科口腔外科學教授

醫學博士 問 田 亮 次

Beobachtungen über die Ursachen der akuten eitrigen

Entzündungen am Kiefer und seine Umgebung.

Von Prof. Dr. med. Ryoji Toida.

(Direktor der Univ.-Zahn- und Mundchirurgie-Klinik zu Fukuoka.)

Vorgetragen am 2ten Oktober 1932 in der ersten Generalsitzung der
Zahnärztlichen Gesellschaft zu Kyushu, Fukuoka, Japan.

私ガ今日マデ約十ヶ年以上ノ經驗ニヨリマスト顎骨々髓炎骨膜炎等ノ如キ化膿性急性炎ハ血行性ニ來ルモノハ少ク殆ンド取ルニ足ラズ。即チ總ベテ齒牙ガ原因デアリマス。所謂齒性原因デアリマスガ、殊ニ病氣ノ勢ノ生ズルトコロニ從ヒ行クトコロマデ行クト云フ例ガ多イノデアリマス。ソコデ顎自體又ハ其ノ周圍ノ化膿性炎ノ原因ハ病菌ニヨリ不可抗力ニヨルモノモアルデセウガ、寧ロ二次的原因、詳シク云ヒマスト技術的原因ノ爲メニ來タト思ハレルモノガ非常ニ多イ様ニ思ハレマス。

二次的原因ノ第一ハ抜齒ニヨルモノ、第二ハ齒科外科ニ於ケル手術ノ後處置ノ缺陷ニヨルモノ、第三ハ注射ニヨルモノ、第四ニハ姑息的手段或ヒハ手術不足ニヨルモノ等ヲ私ハ二次的原因ト考ヘテ居リマス。

私ハ今日此ノ席ニ於テハ事六ツカシク理論的説明ヲセズニ此ノ二次的原因ニツイテ次ノ如キ例ヲ舉ゲテオ話シシタイト思ヒマス。

第一例。壯年ノ男子ニシテ初メハ下顎智齒ノ遠心部ニ急性ノ疼痛ヲ發シタ。ソコデ或ル所デ診テ貰ツタガー兩日冷罨法ヲナシ含嗽ヲナシタ。併シ疼痛ハ已然止マナイ。ソコデ翌日抜齒シテ貰ツタガソノ後益々疼痛ヲ加ヘテ下顎第一第二大臼齒迄モ痛ミ出シタ。ソコデ又ソレ等ヲモ拔去シテ貰ツタガ腫脹ガ益々激シクナツテ漸次前方齒牙ニ及ビ遂ニハ反對側ニ

モ進ンデ即チ急性顎骨髄炎ヲ誘發シタ。ソコデ私ノ處ニヤツテ來マシタ。見ルト明カニ骨髓炎デアリマス。最初智齒ノ拔齒ノ時ニハ該齒牙ハ打診シテモ疼痛ノナカツタモノガ拔去後漸次増惡シテ私が見マシタ時ニハ熱モ四十度ヲ越シテキマシタ。ソコデ取リアエズ顎骨ニ沿フテ切開シ充分苦心シテ生命ダケハヤツトコサ取リトメマシタガ全顎骨ハ腐骨ヲ形成シ除去シナケレバナリマセンデシタ。ソノ人ハソノ爲メニ失業シタソウデアリマス。

本例ニ於テ皆サンハ何ウオ考ヘニナリマスカ。私ハ敢ヘテ申シマスレバ智齒ノ拔去ハ適應デナカツタト云ヘマス。即チ打診スルモ疼痛ガナイノニ拔去シタノガ間違ツテ居ルト思ヒマス。拔去ノ爲メニ病症惡化セルモノト考ヘマス。本例ハ智齒難生ト思ヒマスガ此ノ如キ例ハ非常ニ多イノデアリマス。智齒難生ノ初期ニハ成ル可ク保存療法ガ宜シイ。適應デナイ拔齒ハ可成ク慎重キデアリマス。

次ニ後處置ニ就イテ云ヒマスト患者ハ拔齒又ハ切開等ヲ恐ハガリマスガ拔齒又ハ切開等ノ手術後ハ反ツテ非常ニ安心シテ病氣ニ反對ニ冷淡ニナツテ約束ヲ守ラズ翌日洗滌ニ來院セズ「タンボン」ヲシタマ、放置シテ數日後經過シテ障碍ヲ起シテカラ初メテ來院シテサモ醫師ニ罪ガアルカノ如ク訴ヘテクルコトガアリマス。此ノ如キ場合ハ患者ノ罪デアリマスガ併シ醫者ノ方デモ説明ガ不足ダツタトモ云ハレマス事ガアリマスカラ口療法ヲ充分ヤル必要ガアルト思ヒマス。即チ是非翌日再來院ス可キ事ヲ申シテ置カネバナリマセン。

次ノ例ハ青年ノ男子(十九歳)ニシテ下顎左側第二大臼齒ニ齶蝕ガアツテ痛ミ出シソコデ醫者ヲ訪フテ根管治療ヲ施シ「ストツピング」ヲ充填シマシタ。所ガ翌々日ニナリ疼痛増加シ惡感戰慄ヲ來シマシタ。ソコデ醫者ヲ訪ヒ「ストツピング」ヲ除去シテ貫ヒマシタトコロヨホド樂ニナツケレドモ併シ疼痛ハ輕快シナイノデ該齒ノ拔去ヲ行ツタ。拔去後翌々日ヨリ又ヒドクナリ顎下ヨリ耳前ニカケテ腫脹シ頸部マデモ及ンデキマス。口内ヲ診査シテ見マスト拔齒窩及ビ骨組織モ比較的綺麗デアリ、之レハ拔齒ノ罪デハナイト不審ニ思ツテヨク見マスト拔齒窩頰側ノ骨膜ガ廣ク剝離サレテ齒齦ト骨膜辨ガ廣ク剝ガレタマ、ニナツテ居ツテ消息子デ診査シテモ「タンボン」モセズ、ソノ中ニハ汚物ヲ澤山タメテキマシタ。恐ラク拔齒時ニ「エレベーター」デ骨膜齒齦辨ヲ剝離シタモノデアリマセウ。本例デハ拔齒窩ハヨク處置サレテ居リマスガ、骨膜剝離面ニハ何等處置セズ、「タンボン」シナカツタ爲メニ因ルモノデアラウカト考ヘマス。拔齒後又ハ齒科外科手術後「タンボン」ヲ施ス、施サナイト隨分ヤカマシク論議サレマスガ「タンボン」ヲヤツタ方ガ私ハ宜ロシイト考ヘマス。少クトモ手術後「タンボン」ヲスル事ハ醫師トシテノ手落ガナイ事ニナルト考ヘマス。

本例ノ如キモ骨膜剝離面ニ「タンボン」ヲ施ス可キデアツタト考ヘテ「タンボン」ハ極メテ重要ナル後處置デアツテ常ニ之レヲ行ツタ方ガ安全デアルト云ヘマス。

次ニ注射ニ就イテハ以前ヨリ急性炎症アル時ハ浸潤麻醉ハ不可デアツテ傳達麻醉ガ推奨

サレマスガ、コノコトハ近時ヨホド徹底シタ様デアリマスガ今日私ノ述べマスコトハコレト少シク異ツタコトデアツテ臨床例ヲ舉ゲテ述ブレバ次ノ様デアリマス。

第三例。青年ノ男子、之レハ初メ下顎左側第一大臼齒＝齶蝕ガアツテ疼痛ヲ發シテ或ル所＝於テ傳達麻醉ノモト＝抜齒セル＝三日後智齒ノ達心ガ腫レテ來マシタ。ソコマデ心配シテ私ノ處＝ヤツテ來マシタ。之レヲ見マスチ智齒ノ達心部ヲ軟組織ガ腫脹シテ覆フテキマス。私ハ多分智齒難生ノ初期ナラント思ヒ保存療法ヲ施シテ歸宅セシメマシタ。然ル＝二三日後再び來リ増悪セルヲ訴ヘマシタ。熱モ三十九度＝達シ惡感戰慄ヲ覺エル状態＝至リマシタ。勿論ソノ初メ＝検査シマシタ時抜齒窩ハ綺麗デアリマシタ。此ノ度ビハ外頰部ヲ見マスチ頸部＝カケテ彌蔓性＝腫脹シ、口腔内＝モ上行枝＝沿フテ腫脹ガアリマス。疼痛ハ強クナイガ牙關緊急ガ少シアリマシタ。故＝此例ヲ私ガ誤診セルヲ悟ツタノデ入院セシメマシタ。早速下顎隅角部ヨリ切開シ上行枝＝沿ヒ深ク進メルモ排膿セズ。次＝口内ヨリ智齒ノ達心部＝深ク切開セル＝初メテ濃厚ナル膿ガ出デ、臭イ瓦斯ヲ放出シマシタ。然シ之レデモ輕快セズ其ノ後モ外聽道ヘ排膿シタリ等シテ頑固デアリマシタ。其ノ人ハソノ爲メカ何ウカ知リマセンガ遂＝肺炎加答兒ヲ起シマシタ。

本例ハ注射液ノ不良或ヒハ注射針尖端ガ齒垢等＝フレテ不潔＝ナツタ爲メノ感染ナルカ否カ分明シマセンガ注射ノ罪デハアルマイカト考ヘマス。カ、ル例ハ多イモノデ又此ノ際ハ切開＝ヨリ常＝特別ノ惡臭アル膿ヲ見マス。姑息手段或ヒハ手術不足ノ場合トシマシテハ病氣ガ一見シテ重クナリソウダト直感シ乍ラ抜齒ス可キヲ延期シテ時期ヲ失シタリスルコトハマ、アルコトデアリマス。一例ヲ舉ゲマス、

第四例ハ男性。二週間前＝下顎左側第二大臼齒＝齶蝕ガアツテ非常＝疼痛ヲ發シマシタ。或ル所デ診テ貰ツタ所急性炎症ガアルカラト云フテ抜齒シナカツタ。其ノ後二三日對症療法ヲ行ツタガ治ラナイノデ他ノ醫者＝行ツテ抜齒シテ貰ツタ。處ガ病氣ハ漸次前方齒牙＝波及シ犬齒マデ動搖シテ來タ齒齦部ノ腫脹ヲ來シタカラ是等ノ齒牙モ拔去シマシタ所遂＝反對側＝モ及ビマシタ。ヨツテ私ノ診察ヲ乞フタノデアリマス。之ヲ診マスル＝明カ＝骨髓炎ヲ起シテキマシタ。カ、ル例モ非常＝多ク、殊＝子供デ尙齒芽ヲ存在スル場合＝ハ殊＝其ノ蔓延ガ速カデアリマス。

カ、ル場合ハ姑息手段ガ原因トナリヒドクナツタト考ヘラル、ノデアリマスガ、元來急性根端性齒根膜炎ノ時ノ根端部ノ小ナル膿瘍ナル時ハウマク行ケバ根管ヲ貫通シタノミデ排膿スルコトガ出來ルガ、カ、ル場合＝ハ疼痛ノ爲メ「エンデン」ガ使ヘズ根管開放ガ行ハレナイノデ齒齦部切開＝ヨル他ナイガマダ硬クテ波動ナキ時ハ齒齦切開ハ効果ナク寧ロソノ切開＝伴フ危險ガ多イ。故＝カ、ル際＝ハ溫濕布ヲナスト大抵ノ場合＝ハ症狀ガ消退シマスガ、ドウシテモイカナイ時＝ハ早く化膿ヲ限局サセテ波動ヲ見テ切開スル。故＝溫メルダケ溫メタ方ガイ、。併シ毎常必ズシモ溫メテハナラナイ。既＝熱ガ三十九度乃至四十

度ニモ昇ル時ハ骨髓炎ノ危険ガ迫ツテキルト見ル可キデソレヲ冷温ニ拘ラズ濕布等シテオク可キデナク、早速齒齦切開ヲナシテ齒槽骨ヲ穿孔シテ齒根端部ニ達シテ十分排膿サス。此ノ際姑息的ナ齒齦切開丈ケデハイケナイ。

次ノ第五例ハ私ノ教室ニ見ユル學生デアリマスガ一週間前ヨリ下顎第二大臼齒ニ金冠ガアリ疼痛ヲ發シマシタ。根管療法ト共ニ頰側ノ腫脹セルノヲ切開シマシタ。併シ疼痛ヲ増スノミデアリマシタ。遂ニ惡感戰慄ヲ起シ四十度近クノ熱ヲ出シマシタガ外頰部ハマダ腫レテキナイ。此ノ大學生ハ試験前デアリマシタノデ先ヅ該齒ヲ拔去シ前ノ齒齦切開ヲ伸バシ骨壁ヲ穿孔シマシタルニ膿ガ出シマシタ。翌日ヨリ速カニ輕快シマシタ。

以上ハ粗末ナ私ノ經驗デアリマス。皆サシノ參考ニナレバ幸甚デアリマス。

(本編ハ昭和七年十月二日、九州齒科學會第一回總會ニ於ケル問田教授ノ御講演ノ大要ナリ。)

拔去齒牙を求む！

本校教授並研究の参考用として會

員諸君の御惠送を望む。

昭和8年3月

九州齒科醫學專門學校

會員各位